

# 令和5年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

## 第1回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2023年5月27日（土）10:00～15:00

参加者：8名（学生：6名 教職員：杉山、中澤）

■実施場所：春日山原始林・若草山

■第1回 春日山原始林の自然と課題（春日山遊歩道北部～若草山）

2023年5月27日（土）10:00～15:00

概要：春日大社から春日山遊歩道～若草山までを歩き、特徴的な自然環境と課題について学び・体験する。

10:00 春日大社国宝殿前集合

10:30 春日大社見学

11:00 春日山遊歩道（北部）

12:00 五感の体操

13:00 葉っぱジャンケン

13:30 昼食

14:00 オノマトベゲーム

14:20 若草山山頂

15:10 解散

### ■概要報告

春日山原始林北部遊歩道を歩き若草山を下るフィールドワーク。参加者は全て1回生で、奈良県外出身者であった。春日大社へ行ったことがないという学生もいたので、春日大社を簡単に説明し、参拝してから春日山遊歩道へ向かった。この日はよく晴れて気温が上がる様子だったが、森の中へ移動すると、涼しい風が吹く。春日山原始林の成り立ちやこれまでどのように守られてきたのかを解説しつつ、折に触れて、葉や木に触れる体験を促した。また、解説の中で出てきた「植生の遷移」や「ギャップ」などの用語について、高校時代に学習したことが、どのようなことを指していたのかを実際に目にする事で再確認されたようだ。

原始林内の下層に植物がほとんどないこと、奈良県によって設置された保護柵内では、下層植生などの回復が顕著に見られることなどを確認し、シカによる採食圧が高い状況についても確認した。

コース後半からは、感性の体操や葉っぱ図鑑、オノマトベゲームなど五感を使って体験するアクティビティを挟みながら、春日山原始林の自然環境の特徴や現在の課題について話をしながら歩いた。

若草山頂からは、奈良を一望し、奈良公園の自然が貴重な景観を産んでいることを意識させるとともに、ナンキンハゼの課題について確認した。

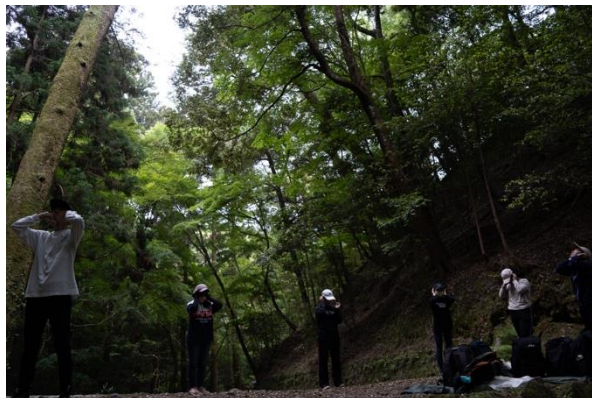
最後に中澤先生より春日山原始林の自然が1000年に渡り維持されてきたのは、人々の関わりがあった

からという話があった。勅命で神山化した春日山だが、トップダウンではなく、その勅命を守ってきた市井の人々の関わりが、現在の春日山原始林につながっている。これからの春日山原始林も同様に関わり続けることが必要である。今後もフィールドワークを通じて春日山原始林や自然環境と人の関わりについての視点を提供していきたい。

■写真



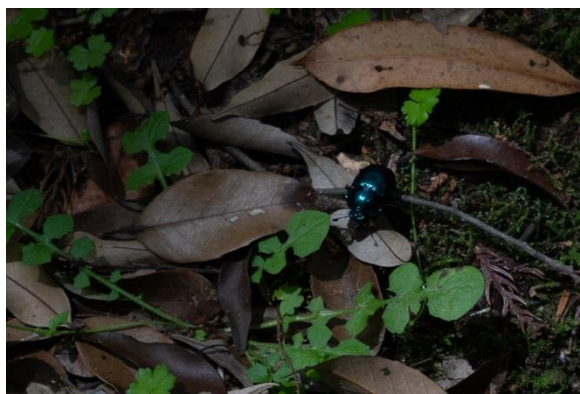
春日大社の説明



感性の体操



オノマトペゲーム



オオセンチコガネ



山頂集合写真



二号目から奈良公園の森つながりを意識する



生長中のナンキンハゼ



若草山と春日山